



第167号
令和4年10月31日
能代市教育委員会
学校教育課
創刊
昭和42年10月10日
題字 元能代市教育長
鎌田 宏

随想



刃を研ぐ

第五小学校長

松田 武

「7つの習慣」という本に、「刃を研ぐ」話が出てきます。森の中で、必死に木を切り倒そうとしている男に出会います。「疲れているみたいですね。いつからやっているのですか。」と尋ねると、「もう5時間だ。くたくただよ。大変な仕事だ。」と。「それなら少し休んで、ノコギリの刃を研いだらどうですか。」と助言すると、男は「切るのに忙しくて、刃を研ぐ時間なんかあるものか。」とはき出すように言ったというお話です。これって、なんだか我々教師にも当てはまりませんか。

それは、教師という職の崇高な使命感から生まれてくるものです。しかし、刃を研ぐ時間を疎かにすると、仕事がうまく進まないばかりか、疲れ果ててしまいます。本校の初任の先生は、子どもと一緒に人生を楽しめる教師になりたいと、目標を掲げています。教師になることは、生涯を通じた出来事です。彼には、刃を研ぐように、自分の能力やスキル、精神力を磨く時間を、大切にして欲しいと思います。そして、日々の生活を大切に、自らの人間性や創造性を高め、教職人生を楽しんで欲しいと思います。

私はというと、豊かな老後を目指すとして、どのノコギリの刃を研ぐのかと思案中です。

随想



ゆく川の流れば絶えずして…

能代東中学校長

平澤 秀樹

「方丈記」は鴨長明が還暦を迎える前に蓮胤の僧名で記した随筆です。「一生の月は西に傾き、余命の山の端に近づいて、三途の閻に向かうときだ。仏の教えは、何事につけても執着してはいけないということだ。それなのに自分は煩惱の濁りに染まりきっている。」と悩みます。「方丈記」は「只、かたはらに舌根をやとひて、不請阿弥陀仏、西三遍申して、やみぬ」という言葉で結ばれます。

私も、還暦を前に教員として「為すべきを為したか」を自問すると「何もしていない」ことに気が付き、ゾッとします。

さて、私が教職に就いた昭和60年から考えると、生徒の気質も学校を取り巻く社会状況も変わり、学校に課せられた課題もずいぶん変わったものだなあ、と思わされます。「久しくとどまりたるためしなし」であればよいのですが、従前からの課題はそのまま残り、新たな課題が蓄積されてきているのが実情です。「部活動地域移行

輝きの一場面



地域に賑わいを創る学校

浅内小応援隊と約二千本を植栽
令和4年6月2日 浅内小学校



これが私の指導法 ～知的財産の継承～

能代第一中学校
教諭 岩城 恵



能代市立向能代小学校
教諭 三洲 由紀子

授業の主役は子どもたち

研究主題

「主体的に学び、共に高め合う子どもの育成」
～他者をつながりながら～

重点①主体的な学びをつくる工夫
各教科の見方・考え方を働かせて深い学びがなされる授業展開、「問い」がつながる授業づくりを
目指しています。学習過程の各段階において「問い」をもたせ、それをつなげることで子ども主体の授業となるような指導の工夫に取り組んでいます。

中学校に勤務してからは、学年主任を務めることが多かった。担当学年が決まったら、まず「学年の合い言葉」を考える。どんな学年にしたいのか、どんな生徒になつてほしいのか、どんな言葉なら生徒の心に響くのか。

3年生には、「完全燃焼!」という合い言葉を多く使った。中学校最後の一年は、全ての活動に「最後の」がつく。だからこそ、一人一人が全ての活動に全力で取り組み、悔いを残すことなく、「完全燃焼」してほしいと考えたからだ。手立てとしては、

あれ? どういうこと? ↓この考えではどうかな? ↓みんなはどう思う? ↓こんなことに生かせるかな?

子どもの思考の流れをこれだけ意識できるかが、鍵となります。

重点②他者をつながり学び合う活動の充実

対話を通して問題を解決するプロセスを重視しています。思考を深める発問など、教師のコーディネート力が求められます。

「シアンタイム」において、子どもたちが活発に意見を出し、その内容がねらいと一致したとき、その発問はよかったということになるのではないのでしょうか。子どもだけだけでなく、教師も、日々の授業の振り返りを大切にしていくことを心がけています。

重点③ユニバーサルデザインによる分かりやすい授業づくり
課題や発問を吟味して思考を焦点化したICTの活用やゴール



行事のたびに「完全燃焼するためには?」「完全燃焼できたか?」「燃焼度は?(グラフ化)」のシートを活用した。一人一人の行事での達成感が次への意欲となり、学年が一つになって、前を向いて進むことができた。

現在、能代第一中学校で2年生を担当している。能代一中の校是「朝気」が目指す生徒像は「顔を上げ一歩踏み出す生徒」。全校のリーダーとなる日があつたという間にやってくる2年生に、今の自分を「一歩」前に進めてほしいという思いから、合

輝きの一場面



6年生 救急講習
一人一人キットで心肺蘇生の練習
令和4年7月1日 第四小学校

い言葉を「一歩!」とした。「どんな一歩を踏み出す?」「一歩踏み出した?」「後ろばかり振り返らずに、なりたい自分を思い描いて、前に一歩踏み出そう!」と、日々生徒に声を掛け続けている。「一歩踏み出せ!」と書かれた振り返りシートを見ると、満足そうな生徒の顔が浮かび、嬉しさで一杯になる。

学校に、学年に、そして生徒の実態に応じた「目指す生徒像」を心に描き、日々生徒を導くための「合い言葉」を掛け続ける。揺るぎない態度で1年を貫くことが、私のモットーである。

編集後記

実りの秋を迎えました。一昨日、秋田の新ブランド米「サキホコレ」が全国デビューしました。約12万株の中から最後に選ばれた1株というところで、大きな注目を浴びています。

学校でも春からの努力が結実する季節です。子どもたちの変化や成長に注目し、大いに称賛したいものです。

今回も、お忙しい中、原稿を執筆していただき感謝申し上げます。(〇)